合同運動会で頑張る児童

集会に集う母親と児童

オセアニア
ソロモン諸島

「ニューホープアカデミー」幼稚園運営支援

概要：2011年２月に首都ホニアラにて、WFWPオーストラリアの支援を受け開園した幼稚園の運営支援を、2013年に開始。

３～５歳児が対象。政府指定の幼稚園カリキュラムに加え、海外（日本、アメリカ、韓国）のカリキュラムを参考に改善している。１学期10週間の４学期制。授業料は、１学期約7,500円で、私立幼稚園の中では低額。行事の資金等は母親たちが募金活動で賄っている。人格教育を取り入れた道徳教育に力をいれ、質の高い教育を提供している。

保護者達が教育熱心で、父母勉強会、読み聞かせ習慣の推進を図っている。

進展状況

【2015】
- ブランコと馬とびを新しく設置。
- 10月28日、ホニアラ市主催の年１度の幼稚園合同運動会に参加。当園が地区で１位になり賞品を獲得した。
- 教師への人格教育セミナーを実施。講座後、教師は教えることに誇りを持ち、生徒の模範となれるように意識が変化した。地域での園の評価も上がっている。
- 12月に27人が卒園。ガダルカナル州の教育省が幼稚園に関心を持ち、2015年度卒園式に参加。

【2016】
- ＷＦＷＰオーストラリアの支援によりソーラーパネル、電球、扇風機を設置。また、幼稚園の新しい制服とエンブレムのデザインをWFWPオーストラリアに依頼した。
- 読み聞かせやフォニックス英語教育が効果を表し、園児たちの英語の読み書きの能力が向上。園内外での生活態度に落ち着きがでて、保護者にも好評。
- メディア協会の主催する研修会に参加し、読み聞かせを紹介した。
- ホニアラ市主催の合同運動会に参加。
- 12月28人が卒園。

児童数	3歳児	4歳児	5歳児	合計
2015	34	33	24	91
2016	34	34	25	93

その他実施国：ジャマイカ

アジア
バングラデシュ

「ジャイギール小学校」運営支援

概要：現地NGOがマニクグンジ県シンガイル郡ジャイギール村に建設した小学校で、1994年よりWFWP日本で黒板、机、椅子、教科書等を支援してきた。開校当時は藁ぶき屋根の校舎で土の上に座って授業をしていたが、1997年に、WFWP日本が派遣した日本の青年たちが手伝って、レンガ造りの校舎に建て替えた。

幼児から小学５年生まで７つのクラスがある。午前は低学年、午後は高学年の授業を実施。

バングラデシュは小学５年生まで義務教育で政府が無償教育を行っているが、農村では子供が労働力に駆り出されることから小学校の脱落率が高い。そのため、「子供達を必ず学校に通わせる」という条件で、母親対象の小口融資プログラムを2007年より学校が実施している。毎年１月と６月に約30人ずつ合計約 60人の母親が参加。1人10,000タカ(約14,000円)の融資を受け、半年で9%の利子をつけて返済してゆく。

村の85%の子供達がこの学校に通っており、私立学校であるが公立学校の教科書を使用して着実に学力がつく教え方をしているため、成績が大変良い。地域の教育委員会が行う卒業生（５年生）対象の統一テストでは総合点で毎年１、２位を競っている。

この学校ができるまでこの村には大学に行った子供はいなかったが、今では名門ダッカ大学に行く卒業生を輩出することができるようになった。卒業生は学校が休みになると村に帰って来てこの小学校を手伝っている。

現地NGOが撤退し、WFWPバングラデシュが運営を引き継いだが、資金不足のため、WFWP日本で2015年に支援を再開した。

児童数	男子	女子	合計
2015	181	161	342
2016	190	165	355

進展状況

【2015】
- 11月に地域の卒業生対象の統一テストが実施され、38人が参加し全員合格。９人がＡ＋、26人がA、３人がBの成績。当校は地域27校中第２位。

【2016】
- 11月に地域の卒業生対象の統一テストが実施され、40人が参加し全員合格。12人がA＋、20人がA、８人がBの成績。当校は地域27校中第１位。
- 運営資金を安定させるため、私立から公立学校に変更する手続きを開始。

識字教室支援

アジア
バングラデシュ

識字教室運営支援

概要：オールドダッカ地区スラム街マジッド・サルディ・コミュニティに現地女医が開設した無料診療所の中の教室にて、スラム街に住む母親を対象に2008年１月に開講。母親が教育を受けていないため、薬の与え方を誤り治療効果が出ないことから、母親対象の識字教室が必要と考えた。学校に通えない子供たちも通ってくるようになったことから2015年に子供のクラスを新設した。授業料は無料。

カリキュラムは、「初級」と「中級」がある。

（初級）ベンガル語・英語・算数・道徳教育

（中級）社会生活に必要な学習・道徳教育

各クラス週５日90分で１年間教える。女性はモスクに入れないため、イスラム教の指導者を教室にお招きして週１回道徳の授業をお願いしている。修了時にテストに合格したらコース終了となり上のコースへ進級できる。教育を受けていない女性たちが小学１年生レベルの読み書きができることは現地では画期的なこと。

生徒数	子供	母親初級	母親中級	合計
2015	17	9	10	36
2016	26	6	10	42

母親クラスの授業風景

進展状況

【2015】

- 通ってくる子供たちは栄養不良になっているため、栄養補助食品を与えるようになった。

【2016】

- 教室のおかげで卒業生の母親たちに、郵便配達や縫製工場などの就職が決まるようになった。ある母親は識字教室に通う子供たちの食事作りのお手伝いとして診療所に就職した。
- ７月１日のテロ事件により、派遣員の入国が困難になったが、現地の活動は現地スタッフにより継続することができた。

ターゲット4.c　2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

美術教員輩出

カリブ海
ドミニカ国

美術教育支援

概要：公教育に美術教育が欠けていることを憂慮した元教育大臣のスケリット首相から、美術教育への協力を依頼されたＷＦＷＰ派遣員は、2002年11月より、ドミニカ唯一の国立大学「ドミニカ・ステート・カレッジ（DSC）」教育学部で１年生の必須科目である美術の授業（週２時間、１学期内７～８回を年３学期）を担当している。また、現職の教師たち自身が学校で美術教育を受けていないため、保育園や公立小学校の教師たちにもカトリックが運営するソーシャルセンターで美術教育を指導し、デッサン、水彩、彫塑、デザインなどの基本的な実技と美術教育の目的を教えている。

青少年の情操教育とモラル教育推進のため、カトリック系の青少年更正施設や小学校からも依頼を受け、美術の授業を行なっている。

派遣員が行うまでドミニカ国に美術教育が存在していなかったため、美術学校出身の派遣員が中心となって教科書を作成した。生徒が使う画材もドミニカ国にはないので、日本からの寄付品を生徒に配布している。

進展状況

【2015】

- DSCで34人の学生、ソーシャルセンターで10人の女性現役教師、青少年厚生施設で８人、デリース小学校で40人の児童に指導。

ドミニカ・ステート・カレッジでの指導

- 日本で開催されている「世界の子供絵画展」に作品18点を出展し、最優秀賞１人を含め14人が入賞した。

【2016】

- DSCで37人の学生、ソーシャルセンターで５人の女性現役教師、コンベント小学校他地方の小学校で211人、地方の中学校・高校の美術クラブで40人に指導。
- 新しい教育大臣と教育省の責任者を訪問し、活動を報告。国として何かサポートすることはないかと聞かれ、画材不足の状況を伝えると、学校に画材提供の検討をすることを約束して下さった。
- 枢機卿の紹介で、新聞社から取材を受け、派遣員の20年以上にわたる活動が詳しい内容で新聞に記載された。
- 「世界の子供絵画展」に17点出展し、最優秀賞１人を含め５人が入賞した。
- DSCで７、８年前に様々な事情で最後まで美術教育に参加できず、修了証書を受け取ることができなかった３人の卒業生が授業を受けたいと派遣員を訪ねて来た。派遣員が特別に授業を設けて修了証書を授与した。